

平成 31 年 1 月 29 日

学校法人東京国際学園 東京国際福祉専門学校  
理事長・校長 武田 哲一 殿

学校法人東京国際学園 東京国際福祉専門学校  
学校関係者評価委員会 委員長 長澤 武嗣

## 平成 30 年度 学校関係者評価報告書

学校法人東京国際学園東京国際福祉専門学校 学校関係者評価委員会規程に基づき、学校関係者評価を実施しましたので、ここに報告いたします。

文部科学省は、専門学校が置かれている厳しい状況を乗り切るため、高等教育機関として職業実践教育に活路を見出し、学校教育の中で存在意義を示すための関係法令の改正を行いました。その一つが学校評価の義務化でありました。学校評価は、専門学校が自らの現状を点検し課題を発見する、さらに、自身では気づきにくい課題について、学校関係者から指摘提言を受けて自己評価を補正し教育の質の向上を図ることを目的としています。

学校関係者評価委員会は、業界団体・職能団体、企業・関係施設の役職員、学校関係学識者、地域福祉団体、卒業生の代表 8 名をもって平成 30 年 11 月 15 日に発足、以後、2 回の委員会を開催し、理事長・教職員の出席を得て、学校運営、教育活動等について提出資料に基づき評価を行いました。その結果、委員同士意見交換等を重ねながら学校に対する意見、要望等をまとめました。

委員会は、少子化、大学全入時代の今日、専門学校の入学志望者減少、若者の福祉業界離れが進んでいる状況において、実習・演習を重視した職業実践教育の強化、積極的な社会人教育の実施、きめ細かい学生支援を行っている理事者・教職員の学校運営、教育活動の努力を評価します。今後は、一層、学校運営、教育活動の改善向上を図ることに加えて、学校運営の基盤たる安定的な学生確保に理事者・教職員一丸となって取り組むことを強く要望します。

委員会では、特に、入学志願者に対するインパクトのある効果的な PR 活動が重要であるという意見の一致をみました。例えば、高校、日本語学校、若者の就労支援施設等への効果的な PR、若者にアピールできるホームページの作成、パンフレット作成の工夫、本館 1 階ロビーや各種施設設備の地域開放、社会人を対象とした再教育制度の活用等、積極的に取り入れることを提言します。

また、介護福祉士養成校の卒業生に対する介護福祉士国家試験受験の義務化元年である平成 29 年度国家試験において、本校卒業生全員合格という快挙がありましたが、今後とも、国家試験対策には十分意を用いてほしい。

本委員会が指摘した各事項について検討され、改善・強化を図られるようお願いいたします。

## 1. 学校関係者評価委員会開催記録

回	日 時	内 容
1	平成 30 年 11 月 15 日 午後 6 時～9 時	委員長互選、委員会設置の趣旨説明、学校の概要説明 学校自己評価報告書等の説明、質疑
2	平成 30 年 12 月 6 日 午後 6 時～9 時	学校自己評価報告書等の審議、意見、要望 委員会報告の取りまとめ

## 2. 第 1 回学校関係者評価委員会議事次第

- 1 開 会 総務課長 広田 学
- 2 校長挨拶 理事長・校長 武田 哲一
- 3 学校関係者評価委員会委員紹介
- 4 学校側関係教職員紹介
- 5 委員長互選
- 6 委員長挨拶
- 7 配布資料説明
- 8 学校法人・福祉校の概要説明
  - (1)全体 総務課長 広田 学
  - (2)介護福祉科 学科主任 福田 ひとみ
  - (3)子育て支援学科 学科主任 松井 友子
  - (4)国際福祉ビジネス科 学科主任 田島 千英子
- 9 学校評価・学校関係者評価について 質保証推進室長 宗 國男
- 10 質疑・意見・要望・提案等
- 11 閉会挨拶 質保証推進室長 宗 國男

### 3. 第2回学校関係者評価委員会議事次第

- 1 開 会 委員長 長澤 武嗣
- 2 委員長挨拶
- 7 配布資料説明
- 8 学校関係者評価委員会報告書について
- 11 質疑・意見・要望・提案等
- 6 学校関係者評価委員会報告書採択
- 12 閉会挨拶 事務局長補佐 小林 幸弘

### 4. 学校関係者評価委員会委員

No.	選出区分	委員氏名	所属役職名等
1	業界職能団体 (介護)	長澤 武嗣	社会福祉法人新宿区社会福祉事業団 若葉高齢者在宅サービスセンター所長
2	業界職能団体 (介護)	小室 孝子	社会福祉法人北区社会福祉事業団 高齢者在宅サービスセンター上中里つつじ荘 センター長
3	業界職能団体 (子育て)	町田 とし江	社会福祉法人 二葉保育園 二葉南元保育園 園長
4	業界職能団体 (子育て)	牧 裕子	社会福祉法人 さやまが丘保育の会 常務理事 統括園長
5	学校関係有識者	竹浪 隆良	首都大学東京 大学教育センター 特任教授 元都立高等学校校長
6	地域福祉団体	徳堂 泰作	社会福祉法人 東京ムツミ会ファロ施設長
7	卒業生 (介護)	合原 由美	介護福祉士 平成 28 年 3 月卒業
8	卒業生 (子育て)	増田 亜希子	保育士 平成 29 年 3 月卒業

## 5 学校関係者評価委員会 評価及び指摘事項

### (1) 教育理念・目的・育成人材像

- 介護施設における本校の学生(実習生)の評判は良い。実習を重要視している本校の教育方針の表れと思う。魅力ある学生が育てば介護業界の未来も明るい。

### (2) 学校運営

- どんなに素晴らしい教育を行っていても、入学者が減少している現状を憂えている。あらゆる手段を尽くして、学生確保に努めてほしい。
- 社会経験のある保育士というのは、保育現場において、以前にはない効果をもたらしている。今後とも社会人教育に力を入れてもらいたい。
- いろいろ経験を積んでから本校に入学する学生も多い。経験が学び直しに役立っている。高校新卒者とは違ったリカレントのメリットをもっとPRすべきだ。
- 専門学校はコミュニティとしての役割もある。専門性を生かして地域の交流の要として活動してほしい。

### (3) 教育活動

- 介護の分野で多くの外国人が活躍している。介護施設において本校の実習生(留学生)の働きを見ていると、外国人の高齢者に対する優しさは介護職に適任だと感じる。平成30年3月卒業の本校介護福祉科留学生(6名)の介護福祉士国家試験の合格率が100%とのこと。今後とも留学生への教育を極めてほしい。
- 実習重視の教育活動を評価する。

### (4) 学修成果

- 平成29年度介護福祉科卒業の留学生6名全員が介護福祉士国家試験に合格した成果は素晴らしい。今後とも、留学生に対する介護福祉士国家試験対策に意を用いてほしい。

### (5) 学生支援

- 精神的に病んでいる学生の対応を十分行ってほしい。
- 本校は、少人数校という特徴を生かして、個々の学生に対する相談助言等支援態勢が整っている。

### (6) 教育環境

- 専門学校はコミュニティとしての働きもある。学校の施設設備について、専門性を生かして地域の交流の要として活動してほしい。

## (7) 学生募集等

- 高校ではあまり勉強に意欲を示さなかった層が、大学、専門学校に進学した場合、より意欲的に授業に取り組むのは、大学生ではなく専門学校生であるという調査結果もある。
- 一般に専門学校は学費が高いというイメージがある。入学したいがその点が不安材料になっているようだ。経済的理由により就学を躊躇する額にとって、奨学金の存在は大きい。各種の奨学金制度を学生(入学志願者)に十分周知してほしい。奨学金制度のパンフレットなどは、誰にでも分かりやすいにすべきだ。
- 本館1階のロビーを学校のPRや入学志願者の利便性を図るために有効活用すべきだ。本校の入口から来訪者に「おやっ」と思わせる演出とか、学校案内、奨学金関係パンフレットなどを置くなど。授業の制作物を展示して、授業の楽しさを演出するのも良い。
- あらゆる手段を尽くして、学生確保に努めてほしい。

## (8) 財務

- 学生募集の高校訪問は、都内・都下だけでなく、近隣県にも広げることも効果的だ。

## (9) 法令遵守等

- 特になし。

## (10) 社会貢献

- 地域の人々が学べる専門学校になれば良い。
- 授業風景や校内の施設設備を広く公開して、本校の良さをPRすべきだ。
- 土日・祝日、長期休暇中に校内の施設設備を地域の人々などに開放してすることも積極的に行ったらよい。
- 学校の教員は、専門家集団として地域と関わることも大切だ。特に本校は、子育てと介護の分野を扱っている。地域の人々の気軽な相談窓口を設置したり、研修会を開催するなど社会資源を有効に活用すべきだ。
- 地域に開かれた学校も大切だが、一歩進んで、学校から地域に出かけていくという姿勢もあって良い。地域の祭りや清掃活動に参加するなど。
- 高齢者のための認知症カフェ(オレンジカフェ)が広まってきたが、場所探して苦勞しているようだ。本校が場所の提供ができれば良いのだが。